

もものくいんぼう すけっちびより

第47回

道を行くと

目前に飛び込んでくる

噴煙の上がる山

初めて硫黄山（アトウサヌプリ）を見たのは、ほんの数年前のこと。網走方面から標茶しべちやに向かって国道391号線を標茶在住の友人の車で行くと、川湯あたりで目の前にモクモクと噴煙の上がる山を通り過ぎた。

噴煙は山麓の噴気孔から出ており、その光景に目が奪われた。突然目の前に現れたような印象だ。この平地にあるような噴気孔は日本で一番近づくことができると言われている。時間がなくて車を降りて眺めることができなかつたので、とても心残りである。

通り過ぎたあと、川湯温泉の日帰り温泉に寄って、温泉に入ったのだが、その温泉の源泉があのもくもくの硫黄山なのである。源泉100%のかけ流しでさまざま持病に効くという、とてもいいお湯だった。

それから気になったので、硫黄山ひもを紐解いてみた。アイヌ語のアトウサは裸の意味で、ヌプリは山なので「裸の山」である。溶岩や硫黄に覆われた山のことを総称してそう呼んでいたのだとか。そして明治時代、硫黄鉱山ができて1970年あたりまで操業していた。それも初めて知ったので、びっくり。2023年には滞在観光拠点「硫黄山MOKUMOKUベース」ができて、硫黄採掘の歴史や周辺の自然、カフェなどもありゆっくり硫黄山を楽しむ拠点ができた。季節にはトレッキングツアーも開催してるそう。準備運動が必要だけど、いつか参加してみたい。

北海道は広いなといつも思う。食べ物も動植物も地形もさまざま豊かだ。先の旅では温泉の後、標茶の友人の宿で、夕食で供された地域きょうの食材に舌鼓あひを打った。振り返り、この大地が永遠に豊かで美味しい笑顔あひが溢れる場所であつたらいいなと新年に祈る。





すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろ事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「はたけのごちそうなーんだ？くだもの」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。